No.381　2026.11. 18

目黒 unesco
目黒ユネスコ
ショートニュース
MEGURO UNESCO ASSOCIATION　http://www.unesco.or.jp/meguro/
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
NPO法人目黒ユネスコ協会

ユネスコ文化講座(1)　**オペラ歌手から学ぶオペラ入門**

主催:目黒区教育委員会・主管:NPO 法人目黒ユネスコ協会
2026 年 9 月 20 日(日)　中目黒 GT プラザホール　参加:114 名
講師:メゾソプラノ歌手　花房英里子氏　・ピアノ伴奏:清水史氏

75 YEARS OF JAPAN IN UNESCO





本講座は、オペラに対して興味はあるが敷居が高くてなかなか劇場に行かれないという方にも、オペラを身近に感じてほしいとの思いで企画しました。講師は目黒ユネスコ協会会員、英語・ドイツ語クラスにも所属されている花房英里子さん。現役で活躍中のオペラ歌手花房さんから直々にオペラについて教えていただき、更にアリアもピアノ伴奏付きで間近で聴くことができるという企画は、早々に受付を締め切る程の大盛況でした。直前に台風接近という想定外の不安材料に悩まされたものの、なんとか無事に開講できました。

ボーイッシュな白の衣装で登壇された花房さんは、ヘンデル作曲「オンブラ・マイ・フ」をしっとり歌い上げ、会場を一気に魅了。「声とキャラクターの関係」についての解説では、アルトはおばあさんやソプラノの役柄の敵、花房さんの声部であるメゾソプラノは女中やズボン役(女性が男装して演じる少年役)、バスは威厳のある人物などに配役されるとのこと。なるほど「蝶々夫人」の中での花房さんは女中「スズキ」役です。続いて『フィガロの結婚』より、伯爵に仕える思春期真只中のズボン役、ケルビーノが歌う2曲を披露。歌唱前に対訳や背景の説明も有り、親しみやすく聴くことができました。

最も印象的だったのは「オペラができるまで」の壮大なストーリーです。出演者は多くの段階の稽古を経てようやく本番を迎えます。各段階で複数の指揮者や監督、美術や衣装関係者、そしてオーケストラが加わり、新演出では3～5年の歳月を要するとのこと。一見華やかに見えるオペラ歌手ですが、対訳本を読みこなし、分厚い楽譜の暗譜から緻密な演技までを求められる実にハードな職業だと痛感しました。正に総合芸術としてのオペラのチケットの価格にも納得がいきます。

後半は真紅のドレスに着替え、サン＝サーンスの「あなたの声に心は花開く」、アンコールでは『カルメン』より「ハバネラ」を妖艶に歌いながら客席を巡り、会場は大いに盛り上がり閉講となりました。

研修　菱田秀子

関東ブロック・ユネスコ活動研修会 in 群馬(沼田市)2026 年 10 月 24 日
※「広げよう平和の心」持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動
基調講演「夢のある魅力的な海を次世代に」 講師:道田　豊氏
参加:齊藤眞澄・久富久美子・谷澤眞知子・山田雅子/4 名

目次:
文化講座(1)/1P
文化講座(2)/2P
企画展/3P
お知らせ/4P

ユネスコ文化講座（2）パレスチナ・ガザの現状から平和を考える

主催：目黒区教育委員会・主管：NPO 法人目黒ユネスコ協会
2026 年 10 月 10 日（日）　目黒区美術館区民ギャラリー　参加60名
講師：佐藤真紀氏　立教大学講師・国際協力アドバイザー

本講座は「パレスチナのいま― ガザ・ヨルダン川西岸 2023-2026」展（実行委員は現地活動家達）において、当協会が企画したものである。講師の佐藤氏はJVCパレスチナ事務所長としてパレスチナに駐在（1997 年～2002 年）。イラク戦争では緊急事態を指揮。その後イラク小児がん支援のためNGO・JIM－NET を立ち上げ長年事務局長を務められ、現在は国際協力アドバイザー・立教大学講師・「サカベコ・アートハウス」代表。（以下佐藤氏講演要旨）



この戦争は、自由を求めたハマスによる奇襲攻撃、いわゆる「アル・アクサの洪水」が端をなす。それに対し、ネタニヤフ政権はハマスのせん滅をかかげて、残虐な戦闘行為を繰り返し、7万人以上を虐殺、避難生活を強要、餓死者も出した。

停戦合意後も、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）による支援食料に群がる人々に発砲するなど約 1400 人を殺し、イスラエルの残虐行為はなおも続いていて、 停戦とは程遠いのが現状だ。ガザの人々にとって3 年間の結果は、国際法違反の入植地の増加・変わらぬ封鎖・より苦しい生活である。

また、この戦争をビジネスチャンスと捉える企業なども在るのが現実で、アメリカでは武器支援で軍需産業が伸びた。「有事に耐えられる国へ」と転換しようとする日本は、イスラエルから武器を買い共同開発をするなど、防衛予算を増やしている。しかし、青年が軍隊に行くのは当たり前とされるイスラエルで、兵役拒否する若者が現れていること忘れてはならない。

イスラエルが大規模なNGO 活動を認めない状況下では、住人が周りの人と助け合えるような、小さなNGOの活動を進めたい。佐藤氏は、パレスチナ滞在中、旧市街につくった図書館で出会った人々について話された。避難所に寺子屋をつくった女性、サッカー選手になる夢を戦争に断たれても、絵を描く喜びをみつけた青年、画材の入手困難に負けずコーヒーやザクロの果汁で描く画家、ボールペンだけを使う画家など。1999 年の国連総会で採択された「平和と文化に関する宣言及び行動計画」で、ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」に感銘し、憎しみの文化を平和の文化に変えたいと思われたそうだ。子どもの絵を通してパレスチナを伝えたいと、ポストカードも作成され、このような活動は一過性のものではなく 20 年後を見据えた活動として続けたい、と締めくくられた。

広報　鈴木　やよい



吉兼加奈子氏

第51回　目黒ユネスコ　平和コンサート　2027

聴いて、知って、もっと楽しいクラシック音楽　～作品に宿る音楽の物語～

＊ピアノ独奏（写真）・ピアノデュオ・ヴァイオリン演奏＊

2027 年 4 月 17 日（土）13：30 開場　14：00 開演
めぐろパーシモンホール　小ホール　定員：200名
チケット料金：大人：3,000 円、小学生：20 名無料招待（保護者同伴のこと）
主催：NPO 法人目黒ユネスコ協会　共催：（公財）目黒区芸術文化振興財団
後援：目黒区教育委員会（申請中）「1月18日（月）チケット発売開始」

企画展「パレスチナのいま」ガザ、ヨルダン川西岸」　共催に寄せて

主催:2023－2026 実行委員会　　共催:NPO 法人目黒ユネスコ協会
2026 年 10 月6日(火)～12 日(日)　目黒区美術館区民ギャラリー　参加約1、000人

皆さんはイスラエルとパレスチナ、ガザの紛争のことをどれだけ知っているだろうか。会場の壁面は中東ジャーナリストたちの写真で埋め尽くされている。イスラエルとガザを封鎖する6メートルの壁の写真がこの紛争を簡単に解決できる問題でないことを物語っている。今回の紛争のきっかけは 3 年前の 10 月 7 日にパレスチナの武装組織ハマスが壁を破ってイスラエルを攻撃(イスラエルの死者 1,200 人・人質250人)したことで始まった。圧倒的に軍事力が強いイスラエルは昨年の停戦までに無差別にガザを報復攻撃。死亡したガザの住民、74,000 人。そのうち 21,000 人以上が子供たちだ。支援に入ったボランティア団体、国境なき医師団、ジャーナリストまでも殺されている。国連からイスラエルのパレスチナへの攻撃はジェノサイド(集団虐殺)だといわれているが昨年の停戦以降も1400 人以上が死亡。イスラエルはガザの攻撃をやめていない。停戦以降メディアからの報道が激減しているが現地の状況は何一つ良くなっていない。展示を行ったジャーナリストたちが毎日交代で会場トークをしているが我々はその生々しいガザの写真とトークイベントを通してより現実を知ることになる。ロシアのウクライナの侵略もそうだが、国際法を無視した紛争がまかり通っている。戦後 80 年、世界が築いてきた「人道を守る法の秩序」が踏みにじられることが続けば将来日本も他人事ではなくなる。古代ローマからの「歴史は繰りかえす」の言葉が頭によぎる。



目黒ユネスコ協会は世界の平和を希求する団体である。今回の企画展に共催という形で参加したが、世界で今起きているこれらの紛争を、なぜ国際社会が、この悲劇を止められなかったか、平和を願う一市民として考えさせられた。私はこの企画展で現実に起きている紛争をよく知り自分たちのことと受け止めることにより、視野が広がり目黒ユネスコ協会の平和活動が、より幅広く生きた活動をするきっかけになると思っている。

最後に1日も早くこの紛争が終わりガザの子供たちに平和が来るよう目黒ユネスコ協会も支援を続けていきたい。

この企画展でお手伝いいただいた理事の皆さんには、会期中予想を上回る 1,000 人もの入場者の対応にご協力いただき、感謝に堪えない。　　芸術文化　望月　昇

▲目黒ユネスコ日本語教室 2027 年冬期

主催:NPO 法人目黒ユネスコ協会・共催:目黒区教育委員会
朝コース　2027年1月12日～3月 18日
毎週火曜・木曜　全18回(2月11日、2月23 日を除く)
土曜コース　2027年1月 16日～3月20日　毎週土曜　全9回
両コースとも午前10時～11時45分・会場:緑が丘文化会館(目黒区緑が丘2-14-23)
対象;16歳以上の初級日本語学習希望者　各クラス 8 名
参加費;朝コース　5,400 円・土曜コース　2,700 円　他にテキスト代
申込開始;12 月2日以降 12 月 31 日まで　先着順
申込方法;目黒ユネスコ協会 HP に掲載の申込フォームを使い、申し込んでください。
詳細は、目黒ユネスコ協会 HP をご覧ください。
問合:meguro@unesco.or.jp　Fax : 03-5725-6160　Tel: 070-2347-3906

TEATIME　「日本語教室紹介」



私は 2022 年の秋に開催された「ボランティアのための日本語教育研修講座」を受講し、2023 年冬期から日本語教室にアシスタントとして参加いたしました。先輩ボランティアのクラスで学習者のサポートをしながら実践的な教授法を学び、今は朝コースのクラスを担当しております。　日本語教室にはたくさんの国の方が参加されています。今担当しているクラスの学習者は 8 名ですが、出身国は 6 カ国におよびます。日本語教室全体では、学習者の出身国は 20 カ国以上になります。それぞれ母語も、日本語を使用する頻度も学習経験も異なるため、日本語の学び方も異なります。聞いたことをすぐに覚えることができる方もいれば、書いて覚える方が得意な方もいます。ひらがながなかなか覚えられない方もいます。絵教材や文字を記入するプリント、音声教材等を駆使して、各学習者が各自のペースで日本語に慣れていってもらうように工夫しています。　休み明けのクラスでは、休み中に行った所や参加した行事の話で盛り上がります。学習したばかりの日本語（時々英語が混じりますが）で、楽しかったことや母国との違い等を、たくさん話してくれます。語彙力が豊かになり、使われる文が長くなっていく様子を見ることが日本語教室ボランティアの楽しみでもあります。　日本語教育担当　緒方　明子

11 月以降の予定

★11/29（日）狂言の魅力
■12/14～1/12 事務局冬休み
★12/20（日）青少年フェスタ
■1/23（土）新年会

■事務局：月曜～金曜/13～16 時 ■自主語学教室 6 講座（仏・英・独・中・伊 2）

★ユネスコ青少年フェスタ
2026年12月20日（日）12：30～16：30
中目黒GTプラザホール
平和の特派員報告、ユネスコスクール発表、
東京インドネシア学校発表、
プラスチックに関する講演と話し合い　など

■「ボランティアのための日本語教育研修講座
みんなの日本語初級Ⅱ」
2027年1月15日（金）～全7回　開講
申込開始：12月10日から（先着順）
詳細は12月1日以降目黒ユネスコ協会 HP に掲載
主催；目黒ユネスコ協会
後援；目黒区国際交流協会
会場；目黒区国際交流協会（目黒区総合庁舎5階）
時間；午前10時～12時
参加費；4000円
（テキスト代2500円及び講師料・資料代等）

■新入会員　どうぞよろしく（敬称略）
神崎　はるか　　河野　安龍
河野　和子　　入交　明子

◇会員募集中◇ 趣旨に賛同される方の入会を歓迎いたします。 問合せ：事務局（宮城）迄。

熊本地震支援募金のお願い

♥災害子ども教育支援熊本地震の振込先
みずほ銀行　祐天寺支店
店番　224　口座番号　1035142
特定非営利活動法人　目黒ユネスコ協会
トクヒ）メグロユネスコキョウカイ
※募金締切：2026年12月末
★皆様の温かいご支援をお待ちしております。

■目黒ユネスコ協会主催
●目黒ユ協会の関連機関・団体との協力事業
▲目黒ユ協会の関連機関・団体との共催事業
★目黒教育委員会からの受託事業

編集後記　秋の目黒ユネスコは『初めて習う日本語』・『スペイン語初級』・文化講座 1&2 など多くの行事があった。その中の一つ 10/6～10/12 目黒区美術館区民ギャラリー『パレスチナの今』展（共催）では、一角の美しく優しげな刺繍に目をひかれた。それは、ガザ難民女性たちによる、一針一針を丁寧に施されたパレスチナ刺繍であった。パレスチナ刺繍は、ユネスコ無形文化財にも登録されている。花や鳥の羽などさまざまな模様は、地域や家ごとに違いがあるそうだ。この尊い文化が無事に継承されていく平和な世界を願っている。　太田　優枝



発行人：NPO 法人目黒ユネスコ協会　齊藤眞澄　編集：広報委員会　〒153-0053 東京都目黒区五本木 2-24-3
TEL. 03-5725-6150　FAX. 03-5725-6160　e-mail:meguro@unesco.or.jp　http://www.unesco.or.jp/meguro/
会費等振込先：NPO 法人目黒ユネスコ協会 郵便振替：00190-8-187774　銀行振込：みずほ銀行祐天寺支店（普通）1004948